



佐賀子どもシェルター  
ばるーん

### 子は鏡、私の在り方

ばるーんで約半年間過ごしたBさんは、大人しく控えめな性格で、自分の気持ちよりも周りの状況を優先させるような子でした。「何が食べたい?」「何が好き?」そう聞くと、いつも愛想笑いしながら「そうですね…」とだけ返ってきました。スタッフの誰が見ても、Bさんの心はカチコチに固まっているように見えました。一緒にご飯を食べ、一緒に寝転んでyou tubeを観て、日常を少しだけ丁寧に、ゆっくり味わう時間を大切にしました。その結果、ほんの少しずつですが、得意な料理やお菓子作りをしてスタッフに振舞ってくれたり、好きなアニメの話を知ってくれたり、穏やかな笑顔が増えてきたように感じていました。

Bさんがばるーんを巣立つための大切な面談が予定されていた日。普段穏やかで物静かなBさんが珍しく饒舌で、少し緊張気味な様子が伝わってきました。しばらく「どうしたもんかな」と考えた結果、私はカラオケを提案しました。Bさんが「一人カラオケ」に行くほどカラオケ好きということを知っていたからです。私が先陣を切って歌った後マイクを渡すと、恥ずかしそうに、でも堂々と、大好きなアニソンを歌っていました。歌い終わった後は「はあ、スッキリした」とボソッと一言。心がリラックスできるのではという思いから、「私歌いたいんだけど、一緒にどう?」と押し付けることなく誘っ

た賭けが功を奏しました。その時間だけは次の面接のことを考えずに好きなことをして発散できたおかげか、Bさんは普段通りの穏やかな笑顔で面接に向かって行くことができました。

私は現在、子育て真っ最中の身ですが、「子は親の鏡」だと思う出来事が多々あります。子どもが熱を出したり夜泣きをしたりしている時は、親である私の心に余裕がありません。一方、私に心の余白が生まれると、不思議なことにそれに呼応するように子どもも快方に向かうことが多い気がしています。

たくさん傷つき、心が冷え切ってやっとの思いではばるーんに辿り着く子どもたち。子どもたちの心をなんとか温められないかと、私たちスタッフは思いがある故に、肩に力が入り過ぎることもあります。でも、氷を外から無理に熱湯で解かそうとするのではなく、その子自身が持つ熱を信じて、ただ、そこに在ること。そして、そこにただ在るスタッフ自身が満たされて、幸せであること。目の前の大切な誰かを守るために、支えるために、笑顔にするために、『自分の在り方』というものを考えさせてもらう機会になりました。Bさんとの出会いに心から感謝いたします。 スタッフ A・S

### 季節のディスプレイ♪



子どもたちやスタッフが「ただいま〜」「行ってきま〜す」と出入りする玄関☆  
そんなばるーんの玄関は、季節によって景色が変わります(\*^~\*)  
2月の今は、節分ということで可愛い鬼さんたちが玄関を彩ってくれていますよ♪  
なんとこれは子どもたちやスタッフの手作り!  
同じ季節でも、その時に入居している子どもたちによって飾りが違ってきたりします。  
(編み物ブームの時は編み物作品が飾られたり!)  
次の季節はどんな玄関になるのか楽しみです☆  
この玄関を通るたびに、子どもたちの心が少しでも和んでくれますように…(^~)



### たくさんのご寄付ありがとうございます

ボランティアの方や、関係者の方々より衣服やお米、生活用品のご寄付をいただきました。皆様の温かいお気持ちが、子どもたちの心にも届いております。入居中の子だけではなく、退居した子どもたちへの支援にも活用させていただきます。皆様のご支援に心より御礼申し上げます。



## 被支援者の子ども、支援に関心のある大人の交流の場「おむすび」活動より



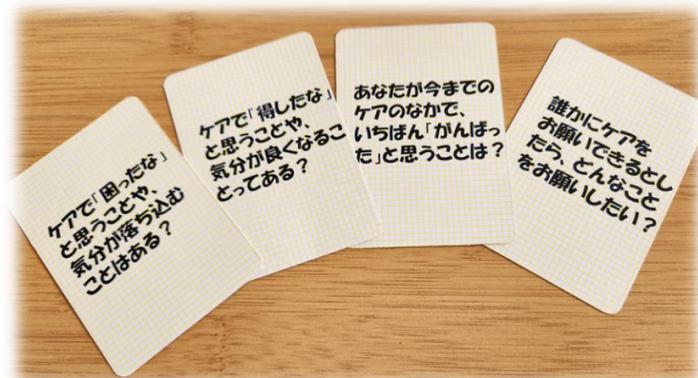
1月17日(土)、ばるーん第二の居場所「おむすび」にて研修を行いました。テーマは「ヤングケアラー」。

佐賀県こども家庭課川原様、長崎県大村市でヤングケアラー支援の活動をされている、「まつなぎや」の山田様にお越しいただき、ばるーんのスタッフや県内の養護教諭などに向けお話をしてくださいました。

昨今、「ヤングケアラー」という言葉が多く知られるようになりましたが、表面的な知識ではなく、支援方法や理解を深められるのは貴重な機会となりました。今回は、基本的な知識をはじめ「なぜ支援が必要なのか」、そして「ヤングケアラー支援とは何か」という題材で具体的な話を聞く事が出来ました。

講話後には、参加者同士の活発な意見交換が行われ、それぞれが「子どもたちのために」という気持ちを持って日々活動しているのだと確認し合うことが出来ました。

⇒ こちらは、手作りのヤングケアラー用のカード！  
カードには一枚ずつ質問が書かれており、遊び感覚で質問に答えていながら自分のことや周りのことについて振り返りができるものとなっています。  
ケアについてではない、『自分の人生を映画に例えると？』など、考えるのが面白そうな質問もたくさんありました☆



## 発酵ランチinおむすび ～ボランティアさんの言葉～

☆☆ばるーん協力ボランティア北村様より、メッセージをいただきましたので了承を得て掲載させていただきます☆☆

今日は朝から子どもシェルターばるーん主催の「おむすび」に行ってきた。

目当ては気功教室と発酵ランチ。

行ってみて分かったのが、気功教室の先生が私が佐賀市職員時代にお世話になった方だったこと。  
数年ぶりの再会にご挨拶をしてから昔話に花を咲かせた。

発酵ランチでは元調理師の皆さんやボランティアの方が作る料理に舌鼓を打って、同席の皆さんとの会話にも花が咲いた。

特に印象深かったのが「おからと豆腐のナゲット」  
この料理はばるーんに入所していた子が作ったレシピを使って今回のランチに出したとのこと。

その子はうちの畑にも就労体験をしに来てくれていた。  
退所が決まって最後の就労体験の時に自分で焼いたパンを持ってきてくれた。

そのパンの美味しかったこと…。



▶就労体験の様子



就労体験の農作業ではブロッコリー苗の鉢上げをしてくれたのを今でも覚えている。

そのブロッコリーがもうそろそろ収穫を迎えようとしている…。

短い期間だったけど、うちの畑での就労体験を通してお役に立てて良かったと思う。

また就労体験を受け入れることで私の仕事も進んだのも本当に有り難い。

おかげで今年はブロッコリーを昨年より多く植え付けることが出来た。

また今日は数多くの出会いもあって終始笑顔の一日だった。  
来月もまた発酵ランチに出かけることにしよう(^^)